

Quarterly Journal of Japan Science Foundation / Science Museum

JSF Today

No.140 / April 2016

特集 = 科学技術館を使ってみよう



公益財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

JSF Today

No.140 / April 2016

●目次

■巻頭言

持続可能な財団経営を目指して ————— 3
—公益事業を支える収益事業—

■特集

科学技術館を使ってみよう ————— 4
ユニークな“貸出施設”としての館の可能性を探る

1 <展示・イベントホール>

区分けされた独自のデザインがもつ機能性 ————— 5

2 <サイエンスホール>

今も昔も、熱き人々が目指す“聖地” ————— 6

3 <会議室>

大会議室、“森”をイメージリニューアル ————— 6

貸出施設のこれからの課題と可能性
最適サービスに努め、新たな文化の発信地へ ————— 7

■第2特集

春休み特別展リポート1

「海!! 未来をひらく! 海からの贈り物」開催 ————— 8
海洋生物がひらく未来の科学技術

春休み特別展リポート2

「見えない光—紫外線のヒミツ展—知る・まもる・使う—」開催 — 11
紫外線対策の重要性を伝えるイベントに多くの女性が来場

■財団 TOPICS

2016 年度事業計画・予算を承認 ————— 12
第6回臨時評議員会、第10回通常理事会 開催

■科学技術館 TOPICS

非鉄金属のルーツを探る! 「Metal Factory」オープン — 13
日本鋳業協会出展の新展示、科学技術館4階に

館ウェブ新連載「子どもに教えたい! 科学技術館」— 14
スタッフおすすめ展示の見どころを、ウェブで紹介!

創造性を育むキッズ・フロンティア・ワークショップ — 15
「カラーコピー機のひみつをさぐれ!」で実験・分解に挑戦

伝えるために必要なことを考える ————— 15
科学技術館の2015年度博物館実習

「第57回科学技術映像祭」を開催 ————— 16
内閣総理大臣賞作品は「紅(べに)」が受賞

八ヶ岳で「冬の星空観察と動物の足あと探検」 ————— 17
大妻女子大との教育連携で自然体験教室が実現!

北の丸公園で恒例の巣箱作りを実施 ————— 17
東京九段ライオンズクラブ・地元小学校と共に制作・観察

■所沢航空発祥記念館 TOPICS

特別展「時代を翔る日本の傑作機たち」、
好評につき開催期間延長! ————— 18
九七式戦闘機の実物大レプリカなど新展示を加えて、6月26日まで

■JSF Staff's View [バックヤード]

原点に遡って見えてきた科学“Museum”の未来 ————— 20
2カ年プロジェクト「日本の産業技術50年」を再考する～競輪補助事業

■お知らせ ————— 22

■科学技術館のご紹介 ————— 23

<表紙解説>

◆表紙を飾った、真っ青な世界に現れた不思議なミステリーサークル。これ、なんだかわかりますか? 直径約2メートル。奄美大島の海底に、何者かが作った“作品”ですが、作者は、宇宙人でも人間でもありません。なんと体長わずか10センチほどのちっちゃな魚、アマミホシゾラフグ。ここ数年、話題を集めている人気者です。

◆今から約20年前、この美しいサークルを偶然発見したのは水中写真家の大方洋二さん。最初は人為的なものかと思ったようですが、ある日、フグが体をふるわせて溝を掘っている様子を目撃したそうです。2014年には魚類学者の松浦啓一博士により、このフグがシッポウフグ属の新種であることも判明、フグは星空のような水玉模様にちなんでアマミホシゾ

ラフグと名付けられ、「世界の新型トップ10」にも選ばれました。せっせとサークルを作るのはオスの役目。サークルができあがるとメスがやってきて中央に卵を産みつけます。そう、サークルは、フグの産卵巣なのです。

◆海の生き物の生態は、まだまだ謎にあふれています。こうした生態を研究すれば、未来の私たちの生活に役立つヒントがたくさんありそうです。こうした海洋生物の生態研究を紹介した春休み特別展リポートは、P8から。今号の特集(P4～)は、科学技術館内の様々な貸出施設をご紹介します。ちなみに科学技術館の外壁にも、このフグと同じように、一面に星々の模様があります(星の数は22,392個!). 命名するなら、キタノマルホシゾラカン、でしょうか。 <永>



表紙・表紙解説 撮影: 水中写真家 大方洋二

持続可能な財団経営を目指して

—公益事業を支える収益事業—



公益財団法人
日本科学技術振興財団
理事 新元 一弘
(株式会社ミュージアムクルー 社長)

今年の新年号年頭挨拶で藤川専務理事が述べたように、いよいよ当財団は、新たな50年のスタートを切りました。

昨年は、科学技術館累計来館者数3000万人を達成しましたが、今後4000万人、5000万人、そして1億人を突破する日を無事に迎えるために我々は何を行わなければならないのか。そのカギはまさにここ数年の行動にかかっていると考えています。

昨年実施した各種周年記念行事や日頃の財団活動を通じて、我々が、さまざまなステークホルダーの皆様からその存在価値を認めていただいていると同時に、科学技術立国ニッポンの未来のためにさらに貢献できる財団として大きな期待をいただいていることを強く感じました。

しかし、この重責をしっかりと受け止め、その期待に応えていくために、「現状維持」では、時々刻々新たな価値が創造されていく世の中から取り残され、おのずとその限界が来ることは明白です。私たちが生き残るためには、提供するサービスの「質」を常に向上させ続けなければならないと考えています。これからも多くのステークホルダーの皆様への期待に応えていく財団であるために、我々の乗り越えなければならない課題は少なくありません。

過去にもご紹介してまいりましたが、我々の行っている公益事業は大別すると、1. 科学技術館の運営、2. 他の教育文化施設の運営管理、3. 科学技術系人材の育成、4. 科学技術の普及啓発、5. 科学技術振興に関する調査研究・研究開発とその促進、となっていますが、自立した民間公益法人である我々がこれらの公益事業だけで「めしを食っていく」ことは不可能です。これらを支える安定した「収益事業」の存在があってこそ、この財団は、経営が成り立ち、また、その収益事業の成功こそが、公益事業で提供できるサービスの「質」を決定するのである。

当財団には2つの収益事業があります。

ひとつは情報システムの受託開発と運用サービス事業です。この事業では、データベース・情報検索技術、各種モデル化技術、コンピュータネットワークシステム構築技術等の高度情報処理技術の活用による、情報システムの設計開発事業及び運用サービス事業を行い、民間企業、官公庁や公的機関などからの厚い信頼をいただき、多くの受注実績を有しています。

そして、もうひとつは今回の特集である科学技術館施設の利用促進事業です。ここ北の丸公園という東京のど真ん中にある科学技術館の付帯施設として、1階の展示・イベントホール、地階のサイエンスホール、5階・6階の会議室をいろいろなお客様にご利用いただいています。詳しくは特集内容をご覧ください。

最後に、この財団を支えるもうひとつの集団をご紹介します。財団の各種活動の一部補完業務を委託されて活動している株式会社ミュージアムクルーです。法人は別ですが、グループ会社としてこの財団の活動の付加価値を高めるために、社員一丸となって努力をしています。

これからも、収益事業の拡充をはかるとともに、そしてミュージアムクルーのバックアップのもと、我々はこの困難な時代を勇気と行動力をもって克服し、必ずや日本の未来に貢献できる公益財団法人として、最高の「質」をご提供できるよう、皆様のご期待に応えるべくたゆまぬ努力を続けてまいります。

科学技術館を使ってみよう

ユニークな“貸出施設”としての館の可能性を探る



東京の真ん中、皇居外苑・北の丸公園の緑のなかにある「科学技術館」は、家族連れでにぎわう“博物館”としての顔とともに、展示場やホールを備えた“貸出施設”としての顔を併せもち、ユニークな施設として人々に認知いただいています。今号では、“貸出施設”としての側面にフォーカスし、施設の様々な活用事例を紹介しながら、科学技術館という施設がもつ、多様かつ自由な活用の可能性についてご提案します。

1階展示・イベントホール全ホールを使う「青少年のための科学の祭典」全国大会の様子

都心の緑のなか、“博物館”を併せもった自由空間へようこそ

皇居のほitori、北の丸公園の生い茂る緑のなかを歩いていくと、星々をかたどった窓が連なる真っ白な外壁の「科学技術館」が姿を現します。

この館を訪れるのは、家族連れや学校団体ばかりではありません。スーツ姿のビジネスマン、和服姿の女性から、着飾った若者まで、まさしく幅広い世代・文化を網羅する老若男女が、日々この館に足を運んでくださいます。

この客層の広さの理由は、科学技術館がもつ、2つの「顔」にあります。

科学技術館の1つの側面は、ご存じ



緑の木立のなかになたずむ科学技術館。「竹橋」[九段下] 各駅からは徒歩7～10分の好立地

のように、科学技術や産業技術をテーマごとに展示する“博物館”としての科学技術館です。そして、もう1つの側面が、当館の立地・施設のメリットを存分に活かした“貸出施設”としての科学技術館。柔軟かつ多様に、より幅広い分野のビジネス・教育用途で科学技術館を活用いただける貸出サービスを行っています。

館の貸出施設は、主に3つあります。1つは、1階のほぼ全スペースを占める「展示・イベントホール」、2つめは、地階の劇場型ホール「サイエンスホール」、3つめは、公園に面した上階にある大小4つの「会議室」です。

貸出施設としての科学技術館の特徴は、まず、何より立地・アクセス・環境の良さがあげられます。緑豊かな国民公園内という特異な立地や、学校の見学行事で活用される認知度の大きさから、高い集客力と満足度を見込める会場として評価をいただいております。

【館内貸出施設フロアマップ】



かには20年近くにわたり継続利用されている顧客事例もあります。

ただし、この好立地に安住することなく、様々な創意工夫を凝らしながら、利用される皆様の個別ニーズを丁寧に汲み取り、高いご満足と成果を得られる施設として、更なる充実を図っていかねばならないと考えております。

そこで、今一度ここで当館の特徴を洗い出し、未来に向けた施設活用の可能性を探ってみたいと思います。

1 展示・イベントホール 分けられた独自のデザインがもつ機能性

<施設概要>

エントランスから時計回りに1号館から11号館、中央にセンターホールが位置し、往来も可能。109㎡(1、11号館)から最大436㎡(10号館)まで、用途に応じてホール数を選択できます。



科学技術館の正面玄関を入ると、広いロビーをぐるりと囲むように、1階フロアのほぼ全域に、大小11のホールが並んでいます。巨大ドーナツを分けけたようなこれらのホールと、そのホールをつなぐロビー奥のセンターホールは、多目的の展示・イベントホールとして、展示会やイベントなど、多様な用途に活用いただいています。

近代建築家の松下清夫氏と平山嵩氏により設計された科学技術館の建物は、その後、増築を経て現在の様式となりましたが、独自の環境工学デザインによる、ある特徴を備えています。

当ホールの大きな特徴としては、第1に、多様な形状のホールが組み合わさり並んでいるため、小規模から大規模までイベントの規模に応じて最適の広さのホール数を選べる点があげられ

ます。また、一般的な大規模会場では、どうしても来場者の移動距離が伸びる傾向がありますが、当ホールでは円形状に多様な形状のホールが配置されているため、限られた敷地内に多くの内壁を備え

展示の幅が広がり、移動距離も短縮され、変化に富んだ動線で行き来することができます。

今年3月に当展示ホール1～3号館、さらにサイエンスホール、会議室を併用いただき開催された「インタラクティブ2016」(第20回一般社団法人情報処理学会シンポジウム)では、イベントホールで様々なインタラクティブ発表



IT関係者や若者で賑わった「インタラクティブ2016」。スクリーンを用いた最新鋭のインタラクティブ装置も人気を博した



(実演展示)が行われました。この催しでは、ホールの分け方を活かし、3室のうち1室の照明を落とすことにより、より効果的な先端技術機器の展示が実現いたしました。

お客様のニーズに応じ最適の環境でご活用いただけるよう、設営に関する様々なご相談も当館で承っております。

<展示・イベントホールを活用した話題のイベントから>

弦楽器フェア

楽器を手に取り、音色を存分に楽しめる場に

ヴァイオリンをはじめヴィオラ、チェロ、ギターなど国内外の新作弦楽器や関連品を一堂に集め、初心者から演奏家までがく観る・聴く・弾くを楽しめる、日本弦楽器製作者協会主催の「弦楽器フェア」。海外からの出展も多く、20年以上にわたり愛されている世界的な弦楽器ショーで、近年は毎年、当館展示ホールを会場に開催いただき、昨年も10月30日～11月1日の3日間、数千人の来場者を集めました。同協会の園田信博会長に話を伺いました。

「2015年で科学技術館では22回目になります。前に使っていた会場が狭くなったため、こちらに移りまして、初回の2部屋から、年々規模が広がっていきま

す。年ごとに使用する部屋の数は変わることがあり、2015年はまた1部屋増やしました。また増えるといいな、と思います。

この会場は、まわりのロケーションも素晴らしいですし、部屋がある程度分かれていることも我々にとって良い面がありますね。どうしても音を出しますので、広い会場ですと音が混ざってしまうんですが、ここは、部屋がいくつかに分かれているので、音の混ざりが多少やわらげられています。

弦楽器は古い楽器がもてはやされがちですが、新しいものでもいいものはいっぱいあるので、実際に楽器を手にとって音を楽しんでみてください」



左)演奏家から信頼の厚いマイスターでもある園田会長。ご自身の新作も出品
右)楽器の美しい音が響く会場。サイエンスホールでのコンサートも例年大人気。今秋も開催予定です

猫マーケット「にゃんだらけ」

“四角くない”空間に猫好きさんが大集結

猫をテーマに多彩な分野の出展者が一堂に会し、展示・販売や様々なイベントを行う「猫好きさんの祭典」猫マーケット「にゃんだらけ Vol.1」が今年1月17日、当館の展示ホール2～6号館で開催され、初回ながら9,000人を動員しました。もともと猫好きで猫グッズの収集・制作や保護活動等もされているという同イベント実行委員会代表の大島暁美さんに伺いました。



雑貨販売からトークショーまで、会場はどきどき猫づくし。人を猫をつなぐ催しに

「これまでジャンルごとに細分化した猫イベントによく行っていたんですが、「猫」というキーワードだけで、いろんなジャンルのものが一緒になったイベントがあったら楽しいだろうなあ、と考えて呼びかけたところ、プロ、アマの作家さん企業・団体まで200組の出展者が集まってくれました。

科学技術館を選んだ大きな理由は、第一に、室内が「四角くなかった」ことですね。変わった形の部屋が連なっているの、お客さんが一筆書きのように会場を歩き、最後まで楽しんで見てもらえるのでは、と考えました。また私自身、小学校のころから高校までずっとこの近所で過ごしていて、科学技術館にもよく来ていましたね」

ほか、主なイベント実績

「学びのフェス」
「ハンドメイドバイク展」
「ジャンクショー TOKYO」
「特許・情報フェア&コンファレンス」
「博物ふえすていばる！」

「夏休み子ども化学実験ショー」
「Tシャツ・ラブ・サミット」
「全国刑務所作業製品展示即売会(全国矯正展)」
「全日本学生児童発明くふう展」ほか

2 サイエンスホール 今も昔も、熱き人々が目指す“聖地”

「利用者の方々の立場に立ち、できるかぎり柔軟に対応する」ことをポリシーに、各業界との信頼関係を築いているサイエンスホール。ここ数年はアニメ関連イベントも増え、ファンから“聖地”の呼び名をいただくなど、若者文化の一拠点としても認知が高まっています。このルーツは、1970年の、ある伝説の会合にありました。

●伝説の「第1回国際SFシンポ」

かつては試写会を毎月10本近く行っていたサイエンスホールもフィルムの衰退とともに催しの内容も変化して、今ではアニメイベント会場として多くのアニメファンから知られています。最近では



昨年12月の「開館50周年記念シンポジウム」の様子。廊下には会場内をうつすモニターテレビも設置



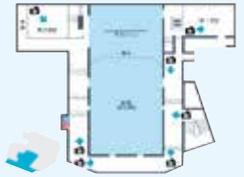
アニメ関連イベント時には多くの若者たちが館に集う。正面玄関でコスプレイヤーに遭遇することも

「聖地」と呼ばれることも多くなりました。実は科学技術館が開館して数年後に行われたあるイベントが伝説となっており、すでに聖地と呼ばれるような下地があったことはあまり知られていません。

1970年8月、大阪万博開催の裏で「第1回国際SFシンポジウム」がサイエンスホールで開催されました。実行委員長の小松左京を筆頭に、発起人として星新一、手塚治虫、安部公房、石森（石ノ森）章太郎、筒井康隆他、多くの著名な作家がその名を連ねました。当日会場には「2001年宇宙の旅」の作者、アーサー・C・クラークを始めアメリカ、イギリス、ソ連などから招待された有名なSF作家たちが一堂に会しました。SFと文明、科学とSFなどをテーマに討論が行われ好評のうちに幕を閉じました。しかしそれ以後2013年まで第2回が開かれることはなく、この第1回は伝説となっています。

<施設概要>

地下2階にある、収容人数410名の本格的劇場型ホール。温かみある内装と大型スクリーンなど各種設備を備え、講演会・セミナーなどのビジネス分野から、実験ショー、コンサート、イベントなど教育・エンターテインメント分野まで多様な用途で活用いただいています



「第1回国際SFシンポジウム」で挨拶をする小松左京
写真提供協力：株式会社イオ（小松左京事務所）、彩流社（『国際SFシンポジウム全記録 冷戦以後から3・11へ』〈日本SF作家クラブ編、異季之監修、2015〉）

●全国から人々が集まる大切な場所

当時のSFに関わる人々の熱い思いが伝説を作り上げたように、今のサイエンスホールでも週末になると、それぞれの熱い思いと共に日本中からこの場所を目指して人々が集まります。年月を経て振り返った時、期待と興奮と真摯な気持ちで目指したその場所はその人にとって、とても大切な場所「聖地」となって記憶の中に残っていくのかもしれない。

（敬称略）

<施設運営部・サイエンスホール 田辺竜一>

3 会議室 大会議室、“森”をイメージしリニューアル



リニューアルした第1会議室は公園の中のような

第2会議室。口の字型は会議に最適

科学技術館の建物には、大小4つの貸会議室があり、様々な会議やイベントに活用いただいています。会議室はすべて、6階・5階という上階にあり、星形の窓越しに、四季おりおりの、北の丸公園の美しい“森”を眺望できます。

この春には、第1会議室（137㎡、41坪、定員90名）を、公園の“森”をイメージしてリニューアルしました。椅子やテーブルのネイチャー・カラーが公園の緑とマッチし、無機質で



<施設概要>

第1、第3会議室（137㎡、定員90名）、第2会議室（64㎡、定員30名）、第4会議室（45㎡、定員16名）。標準レイアウトは教室（スクール）型または土間（スペース）型（第4会議室は円卓・固定式）。各種マイク、液晶プロジェクター、ホワイトボードなど備品も充実。イベントホールとの併用も盛んです

はない、落ち着いた空間となっています。どうぞご利用ください。

貸出施設のこれからの課題と可能性

最適サービスに努め、新たな文化の発信地へ

都心の貸出展示会場の数は、約50年前と比較すると、実に数倍にも増えており、こうしたなか、科学技術館もサービスのさらなる充実と特徴を生かした差別化を図ることが、当館貸出施設の運営・管理を担当する施設運営部でも喫緊の課題となっています。最新設備等では他の貸出会場に譲る面もありますが、当館では、アクセスの利便性、環境の良さ、博物館併設という特質を活かしながら、お客様との密なコミュニケーションを重視し、可能な限りニーズに応えることで、確かな信頼関係を長期的に築いていきたいと考えております。

また、子供たちの科学・技術への関心を維持・向上させるため、関係企業・団体様と協力しながら、社会に貢献できる館の活用の可能性をさらに探っていくことも、今後の目標です。

今年3月には、公益社団法人発明協会主催による「第74回全日本学生児童発明くふう展」が、当館展示ホールを作品展示会場、サイエンスホールを表彰式会場として開かれました。表彰式では、

常陸宮ご夫妻をお迎えし、「無針弧(むしんこ)ンパス」で恩賜記念賞を受賞した道脇愛羽さん(私立聖徳学園小2年)らが表彰され、展示会場では受賞者と同世代の子供たちが楽しく作品に見入る様子も見られました。

また、前出の「インタラクティブ2016」の倉本到大会委員長は、当館を選ばれた理由として、「特に次代を担う若い学生・中高生を含む多くの一般の方々にインタラクティブ研究の最前線を体験いただける場を提供できる」(冊子より)と述べておられます。

これからも、多くのお客様にご満足いただけるよう、私どもがご提供できるノウハウ、資産はすべて最大活用し、当館施設をご利用いただけるお客様、来館されるお客様の双方に向けた最適な



①「科学技術館賞」を受賞した河崎史樹くん(山口市立小郡小学校6年)とその作品「アナログプログラムロボットを作る!II」②「第74回全日本学生児童発明くふう展」の展示の様子③サイエンスホールでの表彰式の様子。科学技術館の野依良治館長も出席



サービスを提供するため、さらなる創意工夫に努めてまいります。

<施設運営部、経営企画・総務室>

[貸出施設のご案内・お問い合わせ]

本特集で紹介しました貸出施設については、下記までお問い合わせください。

URL : <http://www.event-jsf.jp/>
お問い合わせ : 日本科学技術振興財団 施設運営部

1階 展示・イベントホール、5階・6階 会議室
TEL.03-3212-3939 (平日9:00~17:00)
地下2階 サイエンスホール
TEL.03-3212-8485 (平日9:00~18:00)

展示エリアにもあるいろいろな貸出スペース ~特徴と活用事例~

科学技術館の展示エリアは、約30の科学・技術をテーマとした展示室・ブースからなる博物館として、子供から大人まで幅広い層が訪れるフロアです(P23参照)。ここにも、常設展示コーナーのほか、様々なビジネス用途に活用いただける貸し出しスペースがあり、多くの企業・団体に活用いただいています。その一部をご紹介します。

◆ 実験工房 (6階)

最上階6階にある「実験工房」は、電子顕微鏡をはじめ充実した実験装置・器具を揃えた実験室です。2013年11月にはリニューアルを行い、機器や器具を一新。一例としては、化学分野ではドラフトチャンバー(局所排気装置=写真)を導入し、排気が必要な薬品を扱う実験の環境を整備し、生物分野では滅菌処理装置「オートクレーブ」を導入するなど設備も整えました。企業・団体の実験イベントや、学校、塾、理科クラブの活動などにも最適です。



◆ 実験スタジアム (4階)

4階にある「実験スタジアム」の貸し出しを行っています。約40人分の作業テーブルと教卓ステージで構成された広々とした教室タイプのマルチスペースです。椅子やテーブルは小学生でも使いやすい仕様となっておりますので、様々な分野の実験工作が意欲的に挑戦でき、また、サイエンスカフェや実験ショーなどの場としてもご利用いただけます。設備には、プロジェクタ、40インチモニター、ワイヤレスマイクなどの使用が可能です。



◆ サイエンスギャラリー (2階・4階)

展示エリアの中央にある回廊(G棟)は、多くの来館者が各展示室へと行き来するための場であるとともに、様々な団体・企業による展示や小規模の催しなども行っている空間です。この回廊の2階と4階は、「サイエンスギャラリー」として、パネルや立体作品などの展示に活用いただけます。コンクールの入選作品展では、壁面にずらりと並べられた力作に、家族連れが見入っている様子もよく見られます。



ほか春休みや夏休みには2階・4階のイベントホールも各種の教室等にお使いいただけます。展示エリアについては下記までお問い合わせください。

URL : <http://www.jsf.or.jp/business/rental/>
お問い合わせ : 科学技術館運営部
TEL.03-3212-8544

春休み特別展リポート1

「海!! 未来をひらく! 海からの贈り物」開催

海洋生物がひらく未来の科学技術



入口にはアマミホシゾラフグが海中で作った“ミステリーサークル”の実物大レプリカが。実物は表紙参照

2016年3月19日(土)から4月7日(木)までの20日間、4階イベントホールで、春休み特別展「海!! 未来をひらく! 海からの贈り物」を開催しました。この催しは、公益財団法人日本海事科学振興財団(船の科学館)の「海の学びミュージアムサポート」の支援事業として実施しました。本展では海洋生物の構造・機能・生態等に学び、科学技術として利用されているさまざまな例を、展示と講座・ワークショップ等を通じて紹介しました。



特別展入口の看板とパネル。海をイメージしたブルーを基調とし、たくさんの展示パネルを並べた



「あ、ハタタテハゼだ!」。親子で水槽をのぞきこみながら会話する姿が会場よく見られた



ミステリーサークルを制作した原島広至氏(左)。素材は沖縄の白砂・貝殻と発泡スチロールだ

海の生き物の、計り知れない力を解き明かす

●「海!!」特別展の第2弾が実現

科学技術館では2014年8月に夏休み特別展「海!! 出航! ふしぎな世界へ」を開催し、海洋生物の不思議な生態や海洋生物を資源として利用し人間社会を豊かにするための科学技術や研究開発を紹介しました。

今回の第2弾「海!! 未来をひらく! 海からの贈り物」ではこの特別展の続編として、バイオミメティクスを中心とした海洋生物の構造・機能・生態等に学び、私たちの未来の生活に役立つようとする科学技術を紹介する展示を行いました。

●「ミステリーサークル」を作るフグ

導入展示として、海洋生物の計り知れない能力を象徴する「ミステリーサークル」をとりあげました。

魚類学者の松浦啓一先生のアドバイスによりアマミホシゾラフグの産卵巣の直径2mの実物大模型を制作し、これを、水中写真家の大方洋二さんから提供していただいた、アマミホシゾラフグがミステリーサークルを作る様子を記録した映像とともに展示しました。体長わずか10cmほどの小さなアマミホシゾラフグが直径2mもの産卵巣を作る様子には、来場者の皆さんも驚かれたようです。



会場では北里大学の学生たちが自らの研究などを詳しく親切に解説してくれた



4階の超高解像度大型マルチディスプレイでは、海洋生物の新映像プログラムの上映がスタート

見て、遊んで、学べる展示コーナー

不思議な世界の扉を開く、ここはまるで“科学水族館”



水槽をブラックライトで照らすと、緑色蛍光タンパク質(GFP)の光を放つオワンクラゲが



フグの顔出しパネルや高速で泳ぐマグロ型ロボットの実物展示を楽しむ子供たち



ヌタウナギの粘液の繊維利用やサンゴ(右)のCO₂固定反応の研究も進んでいる



魚の群れに学び開発されたロボットカー EPRO。対象物に反応し衝突を回避する



巻貝に付着したフジツボを電子顕微鏡で観察。水の中で使える接着剤のヒントに



GFP(左)やカイメンの水路のモデル(右)などの構造を3Dプリンタでモデル化



●海洋生物とバイオミメティクス

海洋生物におけるバイオミメティクスを代表する例として以下の研究・技術開発を取り上げて展示しました。

例えば「カイメンのスカスカな体に隠された秘密」では、カイメンの体中の水路網を株式会社島津製作所の協力によりマイクロフォーカスX線CT装置を用いて撮像し、それを3Dプリンタを用いて出力し、視覚的にわかりやすい模型を作成しました。

「海洋生物とバイオミメティクス」の展示一覧(敬称略)

- ・カイメンのスカスカな体に隠された秘密(海洋研究開発機構 椿玲未)
- ・マグロの皮膚に学ぶ摩擦抵抗の少ない船舶塗料(日本ペイントマリン株式会社)
- ・サメの皮膚に学ぶ摩擦抵抗の少ないテニスラケット(ダンロップスポーツ株式会社)

- ・ヒラムシに学ぶ遊泳ロボット(統計数理研究所 数学協働プログラム 風間俊哉)
- ・マグロの高速遊泳に学ぶマグロ型ロボット(東京電機大学工学部機械工学科 伊東明俊)
- ・魚の群れに学ぶぶつからないロボットカー(日産自動車株式会社)
- ・フナムシに学ぶ液体輸送(浜松医科大学 針山孝彦/名古屋工業大学 石井大祐)

それぞれ難しいテーマですが、来場者にとって、より理解しやすくなるよう模型や解説映像等も展示しました。

●海洋生物は奥が深い

北里大学海洋生命科学部・理学部の協力を得て、以下の海洋生物の科学技術利用例を展示しました。

オワンクラゲの生体展示では、ブラックライトをオワンクラゲに照射して、

GFP(緑色蛍光タンパク質)が緑色に美しく発光する様子をご覧いただきました。また、GFPの分子構造の模型を3Dプリンタで制作し、より興味をもっていただけるように努めました。

「海洋生物と生化学/医療、海洋生物との共生」の展示一覧

- ・クラゲが照らす医療の未来～見えないものが見える～(オワンクラゲ)
- ・クラゲが生きる(ムチン、コラーゲン)
- ・水の中で使える接着剤(フジツボ、イガイ)
- ・海は巨大なCO₂貯蔵庫(サンゴ)
- ・ぬるぬるスライムが服になる? ヌタウナギの粘液の繊維への利用
- ・海藻は、奥がフッカイ、ソウです(ワカメ、コンブ)
- ・健康だけでなく、美容にも!? (アカモク)
- ・この貝は安全? 命を大切に、簡易に測定できるイライザ法

講座・ワークショップがいろいろ

子供たちも熱中！ 海洋生物と科学技術に親しむ時間



「泳げ！ヒラムシに学ぶソフトロボット」の様子



「光る！クラゲのストラップ」で作ったクラゲたち



「サンゴ入りストラップを作ろう！」でVサイン



「マリンドームを作ろう！」。海の世界にも興味か



「あ、光ってる！」生物の発光現象も学びました



「透明標本を使って学ぶ魚のしくみ」のようす



できあがった魚の透明骨格標本。きれいです



講座「海藻のみみつ」。ワカメの種類などを解説

●ヒラムシロボットにハマる！

特別展開催中に以下の講座を実施しました。それぞれ非常に興味深い内容でしたが、「泳げ！ヒラムシに学ぶソフトロボット」では、ヒラムシの生体を観察してもらった後で、子供たちにヒラムシロボットを操縦してもらい、ヒラムシの泳ぎ方をどのようにロボットで模倣しているのかわかりやすく解説しました。

講座一覧 (敬称略)

- ・泳げ！ヒラムシに学ぶソフトロボット
(統計数理研究所 数学協働プログラム 風間俊哉)
- ・クラゲが見た海
(北里大学海洋生命科学部 三宅裕志)
- ・海からの贈り物
(海洋研究開発機構 椿 玲未)
- ・海藻のみみつ
(北里大学海洋生命科学部 横山雄彦)
- ・フジツボのみみつ
(北里大学海洋生命科学部 加戸隆介)

- ・透明標本を使って学ぶ魚のしくみ
(歴史・サイエンスライター 原島広至)

北里大学海洋生命科学部の学生さんによるワークショップを開催しました。

ワークショップ一覧

- ・光る！クラゲのストラップ
- ・サンゴ入りストラップを作ろう！
- ・マリンドームを作ろう！

工作ばかりでなく、海洋生物について小学生向けのやさしい解説も行い、参加者にもたいへん好評でした。

●迫力の高解像度映像

サンゴ、クラゲ、サメ、海藻など、この特別展で取り扱った海の生き物が海洋で実際に生きている姿を超高解像度の迫力ある映像として上映しました。この映像は特別展終了後も引き続き、4階ロビーの大型ディスプレイにて上映されますので、ぜひご覧ください。

●まとめ ～未来の可能性を秘めた海！！

海は種類、量ともに生命の宝庫であり、われわれの想像を超えるような未知の能力をもった海洋生物がいるかもしれません。彼らの構造・機能・生態等に学び科学技術に活かしていくことは、私たちの未来に大きな進歩をもたらす可能性を秘めています。今後も海洋生物を科学技術の視点から着目し、展示等でご紹介する機会を創りたいと考えています。

最後に本特別展にご協力をいただいた先生方、関係機関、関係各社に御礼を申し上げます。特に高分子学会バイオメティクス研究会の下村政嗣運営委員長と、北里大学海洋生命科学部の三宅裕志准教授には、多くの示唆と監修及び出展についてご協力をいただきました。重ねて御礼申し上げます。

<人財育成部 湯浅 孝>

春休み特別展レポート2

「見えない光—紫外線のヒミツ展～知る・まもる・使う～」開催 紫外線対策の重要性を伝えるイベントに多くの女性が来場

2016年3月19日(土)～4月3日(日)の16日間、株式会社資生堂と科学技術館の共催で「見えない光—紫外線のヒミツ展」を3階ワンダー・ガレージにて開催しました。「知る・まもる・使う」という切り口から、見えないけれど私たちの生活に密接に関わっている紫外線について紹介する特別展でした。開期中の3月20日(=サニーゼロ)は、春分の日を境に日照時間が長くなり、日に焼ける機会が増えることが由来となっている「日やけ止めの日」に制定されており、これから訪れる紫外線予防について学ぶ機会ともなりました。



隠れシミの測定。紫外線について学んだらクイズに挑戦。UV-AとUV-Bの違いを理解できれば、正しい日焼け止めが選べます

●紫外線対策の大切さを実感!

一生に浴びる紫外線のうち、半分以上は18歳までに浴びてしまうと言われています。親子で隠れシミの測定を行い比較してみるとその違いは顕著に表れており、「子供のうちから日焼け対策を行うことが大切」と実感された方も多くいらっしゃいました。

紫外線は全て悪いわけではなく、研究・産業利用されている一面についてもポスターにて紹介しており、見えないけれど、その凄さについて理解していただけたのではないのでしょうか。



会場の入口には、降り注ぐ紫外線をイメージした大きな横断幕が。母親層を中心に女性の関心を引きつけた催しでした

●実験教室、工作教室も大人気

土、日、祝日には研究員の方が講師になってくださり、ワークショップとして実験教室「日やけ止めの効果を実験で確かめよう!」とUVビーズを使った工作教室を実施しました。

どちらの内容も、早くも「夏休みの自由研究にしたい」との声があり、どのように進めれば良いのかを真剣に相談している様子も見受けられました。

平日は研究員の方が常駐して下さり、展示の説明に加えて日ごろ使用している化粧品についての疑問など様々な相談に回答して下さる様子も見受けられました。スキーで日焼けした男児やオーストラリアから一時帰国して来館されている家族連れは、近年増えている皮膚がんについても質問されていました。

●幅広い世代の女性から関心を集めて

来場者にとっては盛りだくさんの内容でありましたが、化粧品の展示があったこともあり、幅広い年代の女性の入場が多く見受けられました。紫外線の種類によって、日焼けの種類も違ってきますので、次は海やプールのシーズンにあわせて、同様のイベントを実施できればと思います。

最後にご協力いただきました株式会社資生堂の皆様に深く感謝申し上げます。

<科学技術館運営部 西田雅美>



UVセンサービーズを使った工作。ビーズの色が変わった時には、しっかり紫外線予防をしましょう



サンスクリーンは本当に紫外線を防いでいるの? 紫外線を防ぐものも合わせて実験で検証。研究のまとめ方も教わりました



日曜みの特別企画：最新の日焼け止め技術について実験を交えながら講演。技術の凄さに驚きの声!

2016 年度事業計画・予算を承認

第6回臨時評議員会、第10回通常理事会 開催

2016年3月14日（月）、公益財団法人日本科学技術振興財団の第6回臨時評議員会および第10回通常理事会が、科学技術館第3会議室にて開催されました。両会議の審議事項について報告いたします。



両会議は科学技術館の第3会議室で開かれ、様々な意見交換を行った



臨時評議員会では三村明夫会長が議長を務めた



通常理事会では当財団の榊原定征理事長が議長を務めた

3月14日（月）午後3時30分から、科学技術館第3会議室にて第6回臨時評議員会を、同日続いて同会議室にて第10回通常理事会を、それぞれ開催いたしました。

第6回臨時評議員会は、現任評議員数16名のうち12名ご出席のもと、三村明夫評議員会会長が議長を務め、開催されました。臨時評議員会では、理事の所属団体の人事異動に伴い理事選任の件、定款の一部変更の件について審議が行われ、原案どおり承認されました。

第10回通常理事会は、現任理事総数16名のうち14名ご出席のもと、榊原定征理事長が議長を務め、開催されました。通常理事会では、2016年度事

業計画および予算書等の承認の件、特定費用準備資金等の保有に係る承認の件、重要な組織の設置、変更について、それぞれ審議が行われ、いずれも原案どおり承認されました。

また、2015年度第2回業務執行報告として、2016年4月から12月までの業務執行状況について報告、および財団の活動状況として、今年の特ピックス（イベント計画：春・夏特別展等）の報告がありました。

両会議において、評議員、理事の方々からは、当財団の活動に対するご意見やアドバイスをいただきましたので、今後の財団運営に活かしてまいりたいと存じます。

<経営企画・総務室 榊水久恒>

2016 年度事業計画の概要（予算規模 2,010 百万円）

■公益目的事業1「科学技術館の運営事業（440百万円）」

1. 科学技術館の常設展示の運営
2. サイエンス友の会の活動
3. 特別展・イベント等の開催
4. アウトリーチ活動
5. 展示の新設、更新、実験体験プログラム開発など

■公益目的事業2「他館の運営管理事業（254百万円）」

1. 所沢航空発祥記念館の運営（埼玉県・受託事業）
2. 青森県立三沢航空科学館の運営とメンテナンス・イベント開催業務（青森県・受託事業）

■公益目的事業3「他館に対する活動支援事業（220百万円）」

1. プレアデス事業による教育文化施設に対する企画・開発・保守支援
2. 教育文化施設に対する企画・開発・保守支援

■公益目的事業4「科学技術系人材の育成事業（97百万円）」

1. 科学技術体験イベントの開催
2. 科学オリンピック国内大会・国際大会

3. 教員のための理科実験指導育成講座開催

■公益目的事業5「科学技術の普及啓発事業（236百万円）」

1. 科学技術映像祭の開催と優秀作品の上映
2. 放射線・エネルギー等に関する理解増進活動

■公益目的事業6「科学技術の振興に関する調査研究事業（2百万円）」

1. 科学技術振興に関する関心・理解度調査

■収益事業1「情報システムの設計開発と運用サービス事業（281百万円）」

1. 情報システムの設計開発
2. 情報システムの運用サービス

■収益事業2「科学技術館施設の利用促進事業（418百万円）」

館施設の活用（催事場、サイエンスホール、会議室の貸出し、その他レストラン等関連施設の運営委託等）

■その他「公・収共通（62百万）」

●科学技術館 TOPICS

非鉄金属のルーツを探る! 「Metal Factory」オープン

日本鉱業協会出展の新展示、科学技術館4階に

2016年3月18日(金)、科学技術館4階に、日本鉱業協会出展による新展示「Metal Factory (メタル・ファクトリー)」がオープンしました。銅、亜鉛、鉛、ニッケルなどの非鉄金属をテーマに、様々な鉱石や製品の展示、PCゲームなどで構成し、楽しく直感的に非鉄金属について学べる工夫を凝らしました。乗り物や家電製品をはじめ身近な多くの製品に利用され、社会を支える非鉄金属。その奥深い世界をぜひ実感してください。



当財団による
製作図の一部



左に「鉱石のいろいろ」、右には非鉄金属製の製品展示「暮らしと非鉄金属」を対照的に配した

●非鉄金属の果たす役割を伝えたい

日本鉱業協会は、銅、亜鉛、鉛、ニッケル、金、銀等の非鉄金属における鉱業と製錬業等に係わる企業の団体です。日本は非鉄金属の原料となる鉱物資源のほとんどを海外鉱山から調達していますが、業界では海外における鉱山開発への参加や自主開発を行って鉱物資源を獲得し、それを製錬加工した非鉄金属材料をわが国の産業界に供給しています。また、それらで培った技術を活用して新材料の開発、資源リサイクル等にも取り組んでいます。

展示企画にあたっては、世界中で鉱山を採掘し地球規模の大きなスケールで事業を展開する一方、それから製錬された多様な非鉄金属材料が、身近な製品の小さな部品にまで利用され、暮らしや社会の隅々にまで浸透していることを描き、業界が担う社会的な役割の大きさと、価値の高さを印象づけたと考えました。

●珍しい鉱石展示からPCゲームまで

展示は複数のテーマからなっており、珍しい形状と色彩をもつ鉱石を実物で展示した「鉱石のいろいろ」と、非鉄金属が身近なものに使われていることを製品で示した「暮らしと非鉄金属」のコー

ナーを左右に配して、対照的に構成しました。中央の映像ディスプレイには、2種類のPCゲームが用意されており、世界地図上で非鉄金属の主要な産出国を探し当てる「金属鉱山をさがせ!」と、日常生活シーンから非鉄金属が使われている製品を探し当てる「暮らしの中の非鉄金属製品をさがせ!」を体験することができます。また「銅製品ができるまで」では、銅鉱石の採掘やリサイクル品の回収から、製錬工程を経て、銅線や銅管等の製品になるまでをスゴロク形式で辿ってみることができます。「非鉄金属製品のリサイクル」では、廃棄された携帯電話や電池のごみの山を示しながら、実はその中には貴重な非鉄金属が含まれており、リサイクルできる「宝の山」であることを表現しました。

●内覧会でも業界関係者から好評の声

展示が完成した3月18日には、業界関係者を招いた内覧会が開催され、多くの皆様から賛辞をいただくことができました。この展示で子供たちが、非鉄金属に対する理解を深め、世界中の鉱山から届いた鉱石が、身の回りの様々な金属として役立っていることを感じてほしいと願うものです。

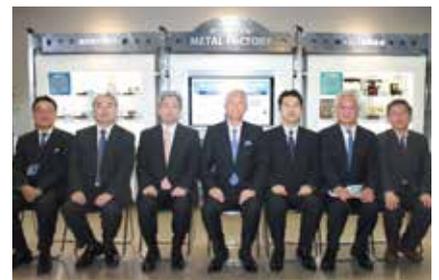
<人財育成部・展示開発グループ 千名良樹>



2つのPCゲーム「金属鉱山をさがせ!」と「暮らしの中の非鉄金属製品をさがせ!」(中央)も人気。コーナーは連日の多くの来館者でにぎわう



スゴロク・ゲーム「銅製品ができるまで」を楽しむ女の子。無事ゴールして製品が完成!



内覧会に出席された関係者様と記念撮影。左から当財団・紙野常務理事、(一社)日本銅センター・亀井専務理事、経済産業省・萩原課長、日本鉱業協会・大井会長、経済産業省・井上課長、日本鉱業協会・加藤専務理事、当財団・植木常務理事

館ウェブ新連載「子どもに教えたくなる！科学技術館」

スタッフおすすめ展示の見どころを、ウェブで紹介します！



科学技術館ウェブ (<http://www.jsf.or.jp/>) トップページ上のこのバナーをクリックすると特集記事をご覧ください



第1話の記事では、人気の展示室 FOREST に設置されたスタッフ開発の展示装置を紹介。連載記事のバックナンバーはすべてウェブ上で読めます。第3回（5月1日に掲載）もお楽しみに！

「子どもに教えたくなる！科学技術館」は、科学技術館にまだ来たことのない小学校低・中学年とその保護者を主な読者に想定し、当館スタッフがやさしく語りかけるような調子で展示室の見どころを紹介する、当館公式ウェブ上の特集記事です。開館 50 年を経過した科学技術館が次の活動段階を歩んでいくにあたり、出展者にもご協力いただきながら、館内に約 30 ある展示室・ブースの見所を特集記事にまとめウェブ上に定期掲載していきます。今年 2 月 1 日にスタートした当コーナーは、年 8 回の連載予定です。

●展示の面白い見方を伝えたい！

科学技術館には、展示室とブースが合わせて約 30 あり、それぞれに、見て触って体験していただけるたくさんの展示物があります。

日々来館者をお迎えしながら、展示を楽しまれている様子を拝見していると、「もう一步踏み込んで、展示物を紹介したい!」と感じることも多く、その場でご紹介や解説をしたりしています。

こうしたことから、もっとたくさんの方々に、スタッフから見ただ「見過ごされがちな展示」、「見方を変えらるともっと面白くなる展示」などを紹介し、おすすめの“展示への向き合い方”を、堅苦しくない手法で伝えていきたい、と考えていました。

そこで企画したのが、当館ウェブサイト上で“おすすめ展示”を紹介するコーナーを設けること。さっそく制作チームを立ち上げ議論を重ね、今年 2 月 1 日、新連載「子どもに教えたくなる！科学技術館」がスタートしました。

●ご来館前の“ネタ探し”に

本コーナーでは、理科や社会科の授業が始まる小学校低・中学年とその保護者を主な読者に想定し、毎回 1 点おすすめの展示アイテムを紹介しています。博物館ならではの言葉にはふりがなを付け、小学生でも読めるような表現を心がけました。また、科学や技術の“解説”となると身構えてしまう大人の方もいらっしゃるの、まずは、



毎回、出展者にもメッセージを寄せていただく本連載。第2回「ベアリング・ラボ」に協力いただいた日本精工 (NSK) 広報の倉本康子さん (右) と当館スタッフが展示アイテムを囲んで打ち合わせ中

展示アイテムを「面白そう!」と思っただけのような“楽しみ方”を取り上げています。

お子様といっしょに家族でご覧になったり、保護者の方がこっそりお読みになって「こんな楽しい展示があるみたいだよ」とお子様に教えてあげたりするなど、ご来館前のウェブでの“予習”としてぜひお使いください。

●“思わず”読みたくなる！工夫も

ページ・レイアウトの工夫点としては、注目してほしい箇所に写真を使い、丁寧にわかりやすく伝えられるよう心がけました。写真に添えるコメントもスタッフの声が伝わるように手書き風の字体を取り入れています。本コーナーのバナーも子供の元気の良さを表現したく動きをつけ、「思わず」記事を読みたくなるような雰囲気大切にしました。ほら、どうですか？ ぜひ読んでみたくありませんか？

<科学技術館運営部 今村康一郎、早武真理子、松浦匡、中村潤/経営企画・総務室 永井紀衣>

創造性を育むキッズ・フロンティア・ワークショップ

「カラーコピー機のひみつをさぐれ！」で実験・分解に挑戦

公益財団法人新技術開発財団が主催し、当財団が共催している「キッズ・フロンティア・ワークショップ」が、2016年3月12日（土）、13日（日）の2日間、科学技術館2階イベントホールにおいて開催されました。

キッズ・フロンティア・ワークショップは、次代を担う少年少女に、実験や創作活動を通じて創造性を自由に発揮させ、科学技術に関する興味や関心をよびおこし、個性豊かで創造的な少年少女の育成を図ることを目的とした事業で、12日は小学4年生～6年生を対象に、13日は中学生を対象に実施されました。

午前は、2人の講師の指導のもと、様々な実験を行いながらカラーコピー機の原理を学習し、午後は4名1グループで工具を使いながらカラーコピー機を分解しました。本ワーク

ショップでは、ただ分解するだけでなく、途中分解で出てきた部品を使った実験も交えながら体験しました。

このワークショップは定員制で事前応募による参加形態のため、当日応募をされていない一般の方から、参加の方法に関して数多く質問を受けました。それだけ魅力あるワークショップを開催できたことを改めて実感するとともに、次回はより広く広報ができるよう計画したいと思います。

<人財育成部>

公益財団法人新技術開発財団
「キッズ・フロンティア・ワークショップ」
<http://www.sgkz.or.jp/develop/workshop/>



LEDを使った光に関する実験。青、緑、赤の光の三原色について学んだ



カラーコピー機の分解の様子。スタッフの指導のもと、工具を使い、協力しあって分解した

伝えるために必要なことを考える

科学技術館の2015年度博物館実習



実習最終日。実習生が緊張のなか、一般の来館者参加の実験ショーを実施



参加者の中から2人の子に前に出てきてもらった実験もありました

2015年度も学芸員課程を履修している学生を受け入れて、10日間の博物館実習を実施しました。この年度は12月に9名の学生に博物館運営の実態を講義と実体験を通して感じてもらいました。

理工系博物館でも小学生から中学生が主な対象となる当館は、博物館の機能の中でも教育・普及という面に特化しています。博物館としては来館者に情報を伝えたいわけですが、その伝達手段として「物（展示）」が伝える場合と「人（スタッフ）」が伝える場合があり、実習期間の前半にはそれぞれの伝達手段でそれを成すために必要なことを中心とした講義をしました。

期間後半には当館の目玉であるワークショップの内容の検討をしました。

実習生は「伝えるために必要なこと」を考え、「自分で考えたことを具体的な形にする」という作業をすることになります。

また業界出展方式という珍しい運営方式では、出展団体からのご支援により他館では体験できない当館ならではのワークショップ・実験を実施できる点が印象に残る学生もいるようです。

このように大学での講義や他館での実習とは異なる点も多いかと思いますが、他者に伝えるための手段・コミュニケーションに重きを置いた実習となりました。コミュニケーションはいろいろな場面で必要になることですので、実習生が今後この経験を活かしてもらえたらと考えています。

<科学技術館運営部 荻野亮一>

「第57回科学技術映像祭」を開催

内閣総理大臣賞作品は「紅(べに)」が受賞

科学技術への関心を喚起する、優れた映像作品を毎年選び、表彰と上映を行う「第57回科学技術映像祭」(主催:当財団、公益社団法人映像文化製作者連盟、公益財団法人つくば科学万博記念財団)が、4月21日(木)、22日(金)の2日間、科学技術館サイエンスホールで開かれました。今年度は44本の秀作が集まり、審査の結果、10本の入選作品が選定されました。



【内閣総理大臣賞 科学技術教養部門】「紅」(企画・製作:佐々木麻衣子/矢島仁)



【文部科学大臣賞 自然・暮らし部門】
「NHKスペシャル『新島誕生 西之島〜大地創成の謎に迫る』」
(企画:日本放送協会/製作:日本放送協会、(株)NHKエンタープライズ)



【文部科学大臣賞 研究開発・教育部門】
「石になった木 珪化木の不思議」
(企画:福井県立恐竜博物館/製作:(株)FBCアドサービス)



【文部科学大臣賞 科学技術教養部門】
「ガリレオX〜オリガミと科学の出会い」
(企画・製作:ワック株)

●共感を育む科学技術映像の数々

今年で57回を数える「科学技術映像祭」は、科学技術をわかりやすく伝える優れた映像を選奨し、科学技術への関心を喚起し、その普及と向上をはかることを目的としています。今年度は、昨年を12本上回る計44本が出品され、審査も困難を極めました。

今回、最も高く評価された内閣総理大臣賞作品は、「紅(べに)」が受賞しました。東京工芸大学芸術学部の佐々木麻衣子監督による卒業研究で、紅をベニバナから取り出す複雑な工程を撮影し、伝統の紅の美しさを科学的に解き明かす作品です。審査委員会副委員長の永野博氏は、「日本の美を科学的な見方も踏まえて紹介する稀有な作品」と絶賛しました。

●科学技術館を皮切りに各地で上映

文部科学大臣賞には、3作品が受賞しました。火山活動による新島誕生を記録した「NHKスペシャル『新島誕生 西之島〜大地創成の謎に迫る〜』」、木の化石・珪化木ができる珪化過程を立体CGで再現した「石になった木 珪化木の不思議」、オリガミが秘める科学的可能性に迫る「ガリレオX オリガミと科学の出会い」の3作品は、それぞれ、企画力や構成・演出力、表現力、メッセージ性などが高く評価されました。

部門優秀賞は6作品が受賞、計10作品が入選しました。特別奨励賞には2作品が選ばれました。受賞作品は、科学技術館での無料上映をはじめ、10月まで全国の科学館等で上映予定です。

＜人財育成部/経営企画・総務室＞

科学技術館映像祭 公式サイト <http://ppd.jsf.or.jp/filmfest/>

「科学技術映像祭」とは——優れた科学技術に関する映像を選奨し、科学技術の普及と向上を図ることを目的として、当財団、(公社)映像文化製作者連盟、(公財)つくば科学万博記念財団の共催により開催する「科学映像の祭典」です。

そのほかの入選作品と特別奨励賞作品

賞	部門	作品名	企画/製作機関
部門優秀賞	自然・暮らし	NHKスペシャル 小笠原の海にはばたけ 〜アホドリ移住計画〜	企画:日本放送協会 製作:日本放送協会、 (株)NHKエンタープライズ
		日本のチカラ #10 世界遺産の町から 〜幸せを運ぶ義肢装具士〜	企画:(公財)民間放送教育協会 製作:日本海テレビジョン放送(株)
	研究開発・教育	イモリの発生Ⅲ 〜タイムラプスで追うイモリの発生〜	企画・製作:富山第一高等学校 自然科学部
		淡水の藻類 〜小さな緑の隣人たち〜	企画・製作:堀田康夫
特別奨励賞	科学技術教養	文明のバトンの渡しかた 第3回 文化財	企画:渋谷区 製作:(株)NHKエデュケーショナル
	研究開発・教育	金属加工シリーズ 金属切削の基礎	企画・製作:(株)日刊工業新聞社
	科学技術教養	映像で振り返る結核対策 公衆衛生の歴史	企画:(公財)結核予防会 製作:(株)桜映画社

八ヶ岳で「冬の星空観察と動物の足あとと探検」

大妻女子大との教育連携で自然体験教室が実現！

●都心部と山間部の自然を比べてみる

昨年実施した自然体験教室を、今年2月には、科学技術館と大妻女子大学との連携事業として実施いたしました。

今回の教室では、サイエンス友の会の会員を含む39名の子どもたちが参加し、都心部と山間部の自然を「星空」と「生きもの」の2つの調査対象から比較しました。事前に行った都心部の観察では、星空はオリオン座の2等星が見える程度で、生きものはスズメやカラスなどの野鳥がほとんど、という結果となりました。

●八ヶ岳で「星空」と「足あと」を観察

八ヶ岳での実施日の2月6日（土）と7日（日）は晴天に恵まれ、初日の夕方にはシカの群れも見ることができて、参加者たちは皆大喜びでした。

オリオン座の観察は、事前観察から自分たちで観察時間を決めて実施しました。肉眼では天の川の観察もでき、最高の星空で観察ができました。

翌日の動物の足あとと探検では、スノーシューをはいてハイキングコースに出かけ、雪上に残るウサギ、シカ、タヌキの足あとやフン、キツツキなどを見ることができました。また、施設のまわりでは、アカゲラやゴジュウカラといった野鳥が多く見られました。

参加者は、星空と生きものを通して、自然の違いを自ら体験することができ、多くの子どもが、「続けて観察をしたい」という感想を述べていました。

サイエンス友の会では、今後も体験活動を重視した教育連携を継続し、連携による効果を測っていく予定です。

<科学技術館運営部 木村おる>



オリオン座の観察：満天の星空を楽しみました



スノーシュー体験：動物の足あとや落とし物を見つけては採集したり、写真を撮ったりしました
写真提供：篠崎潤一

北の丸公園で恒例の巣箱作りを実施

東京九段ライオンズクラブ・地元小学校と共に制作・観察



巣箱を作っている様子



昨年シジュウカラが作った巣。巣の中央にはコアシダカグモの抜け殻が落ちていた

新しい巣箱はもともと掛けていた場所に、交換して掛ける

科学技術館のある北の丸公園は、都会の真ん中の、人の手で作られた公園にもかかわらず、緑に囲まれ、昆虫や野鳥もいて、時にはタヌキなどが現れることもあります。しかし、土日ともなると、家族連れで芝生で遊んだり、自然観察をする方などで賑わいます。

散策したことがある方なら、公園内にいくつか小鳥の巣箱が設置されているのにお気づきでしょうか？ シジュウカラやヤマガラなどの小鳥は子育てのため、エサとなるガなどの幼虫を集めます。これは木々に付く害虫が減る効果があると言われています。

科学技術館では、東京九段ライオンズクラブのご協力のもと、毎年巣箱の掛け替えを行っており、今年は2月11日（木・祝）に巣箱作りと掛け替えを

行いました。小鳥に巣箱を使ってもらうことで、公園の木々を守り、小鳥の姿や営巣の様子を来園者に見てもらおうというのが目的です。

巣箱を作ったのは公園近隣の小学生などおよそ70名。1日かかりの作業です。午前中は巣箱に来る小鳥についてや、巣箱設置の意義などをライオンズクラブの方々に教えていただき、キリや金づちを使って、組み上げていきました。そして午後には掛け替えをしました。

一年間使った巣箱のフタを開けてみると、小鳥が営巣した跡や、他の昆虫やクモが使った様子などを見ることができます。子どもたちは何が入っているかわからないドキドキ感のなか巣箱の中を観察していました。

<科学技術館運営部 早武真理子>

特別展「時代を翔る日本の傑作機たち」、好評につき開催期間延長！ 九七式戦闘機の実物大レプリカなど新展示を加えて、6月26日まで



テレビドラマ「妻と飛んだ特攻兵」撮影時の「九七式戦闘機」実物大レプリカ

所沢航空発祥記念館で、2015年11月21日（土）より開催している特別展「時代を翔る日本の傑作機たち」は、各機体をより詳しく紹介する公開講座（講演会）や零戦プラモデル教室等の関連催事も交えて4月17日（日）まで開催予定で

したが、好評のため展示物の追加も行い、6月26日（日）まで開催期間を大幅延長することとなりました。追加展示物やこれまでの関連催事の大きな反響等についてお知らせします。所沢で皆様のお越しをお待ちしています。



ARで表示された零戦二一型の画像。同機のほか3種類の機体の迫力ある飛行シーンが楽しめます



デアゴスティーニ「第二次世界大戦傑作機コレクション」のダイキャストモデル。特別展で紹介した以外の機種もあり、「傑作機」の世界が広がります

●特別展会期延長と、その見所

(1) 迫力満点！実物大「九七式戦闘機」 （レプリカ）が登場

特別展の会場で実施してきた来館者のアンケート調査の結果として「実機が見たい」との意見も寄せられており、特別展の会期を延長するに当たり、陸軍九七式戦闘機レプリカを記念館で購入することとなりました。

これはテレビ朝日で昨年8月に放送した戦後70年ドラマスペシャル「妻と飛んだ特攻兵」の撮影で使用された模型で、もともと埼玉県内で製作され、京都府と岐阜県での撮影に使用されました。多くの資料を収集して製作されたといわれるこのレプリカは、操縦席の内部に至るまでかなり細かく再現されているほか、ドラマの舞台である満

州で使用された状態の塗装が施されています。

九七式戦闘機の実機は、博多湾から引き揚げられた機体が福岡県の筑前町立大刀洗（たちあらい）平和記念館にあります。同館の機体と今回のレプリカを印象比較すると、大刀洗の機体は実機ならではの迫力や海中から引き揚げた当時そのままの姿から戦争の悲惨さや70年という時間の流れを強く印象付けるのに対して、同レプリカは精密な復元技術の高さを感じさせます。

九七式戦闘機は1936年、埼玉県熊谷で初飛行を行い、旋回性能、速度、航続距離を並立させた日本陸軍の戦闘機でした。また所沢飛行場に飛来したこともあり、埼玉県、所沢市にゆかりの深い機体といえます。

(2) 傑作機がリアルに蘇る、

日本海軍機の動的 AR 展示

「九六式艦上戦闘機」「零戦二一型」「雷電」「烈風」の飛行シーンを表現した AR (拡張現実) 展示を 3 月末から行っています。実物大に近い大きさとリアルな質感で来館者の注目を集めています。

(3) デアゴスティーニ「第二次世界大戦傑作機コレクション」モデル展示も

小さいながらも迫力あるダイキャストモデルとして製作された「雷電」「隼」「コルセア」「ライトニング」等の機体の展示を 3 月末から開始しました。販売に合わせて展示機数を増やしてゆく予定です。

●特別展の関連公開講座が大好評

(1) 「二式飛行艇の遺伝子を受け継ぐ『US-2 型救難飛行艇』」

<1月16日(土)>

二式飛行艇 (二式大艇) を開発した川西飛行機の後身であり、US-2 型救難飛行艇を開発した新明和工業株式会社の藤本記永技術部長を講師に迎えて開催しました。同機の開発の流れが詳しく紹介され、機体塗装の違いなど担当者しか知らないエピソードも明らかにされました。飛行艇に関する講演会の開催は珍しく、本講座は申し込みが定員の約 4 倍に達しました。

(2) 「Honda 航空機エンジン開発

挑戦の軌跡」 <2月7日(日)>

今最も関心を集めている機体とも言える HondaJet に搭載されたエンジンについて、一貫して設計に従事された株式会社本田技術研究所・航空機 R&D センターの野田悦生 首席研究員が、最初期から 2015 年に製造認定を得るまでの過程を貴重な映像を交えて

紹介されました。

若い参加者向けにご自身の設計者人生を通して得られた教訓もお話しされ感動のうちに終了しました。本講座も若い方を中心に定員の約 3 倍の申込みがありました。また、当日当館のエントランスに「HF120」等の 3 エンジンが展示され、多くの方たちが興味深そうに見学しておられました。

(3) 「P-1、XC-2 の開発」

<3月5日(土)>

自衛隊の次期哨戒機 XP-1、輸送機 XC-2 のチーフデザイナーであった川崎重工業株式会社の久保正幸氏を講師に迎え開催しました。

「共有化」「低コスト」「同時期」をテーマとして両機同時に開発が開始され最終的に構造の 20%、装備の 75% は共通化でき、「限界はあったが頑張った」と感じたこと等が紹介されました。また、チーフデザイナーの役割として、約 600 名の関係者が気持ちよく働けるよう「環境整備」を行うことが大切と述べていたことが印象的でした。

●ワークショップ『週刊 永遠のゼロ戦プラモデル』をつくる』も実施

零戦二一型か五二型の模型製作と塗装を行う教室を計 4 回開催しました。参加者としては、大人より小学生が多く長時間細かい部品を扱いながら機体を組み立てていたのが印象的でした。

開催期間延長以降も、所沢で日本の傑作機の世界をぜひお楽しみください。

<航空記念館運営部 近藤亮>

特別展「時代を翔る日本の傑作機たち」
特設サイト

<http://www.tamevent.com/>



特別展「時代を翔る日本の傑作機たち」の延長を告知するポスター



HondaJet 開発の歴史を物語る 3 台のエンジンの同時展示は珍しく、多くの方がじっくりとご覧になっていました



公開講座「P-1 XC-2 の開発」は元チーフデザイナーの貴重な経験を聞き出そうと終了後も質問者が講師の前に並んでいました



ワークショップ「『週刊 永遠のゼロ戦プラモデル』をつくる」は初心者からこだわりのあるマニアまで参加し、それぞれのペースで機体を組み立てていました

原点に遡って見えてきた科学“Museum”の未来

2カ年プロジェクト「日本の産業技術50年」を再考する～競輪補助事業

財団スタッフの視点から、様々な活動を語る「JSF Staff's View」。今号は“舞台裏”での活動を紹介する[バックヤード]です。今回のテーマは、2014年度から2015年度までの2年間にわたり当財団が展開した競輪補助事業「ニッポンの産業技術50年～今日の技術（ちから）が未来（あした）をつくる」プロジェクト（5055プロジェクト）。科学技術館開館50周年、財団設立55周年を記念し、「大・展望展」をはじめ様々なイベントを展開したこの長期プロジェクトの意義と成果をプロジェクトリーダーが振り返ります。

●コンセプトは「アラウンド50」

「5055プロジェクト」の構想段階では、公私昼夜を分かつたず、“50”や“55”という文字が入った記事・情報におのずと目が向きました。そこから、私たち科学技術館と同じくおよそ半世紀の歴史を持っていて、誰もが知っている産業技術として関心を惹くモノやコトを切り口にしたと思い立ち、浮かんだのが「アラウンド50」というコンセプトです。

科学技術館が開館した1964（昭和39）年は、アジアで初めてのオリンピックが東京で開催された年であり、わが国は高度経済成長真っ只中にありました。時代の勢いということでしょうか、今でも活躍する数多くのモノやコトが、この頃スタートを切っているのです。

これまでの50年とこれからの50年を見通す視点として、同じ頃に歩みを始めたモノやコトが、いかなる背景で



メキシコGPで日本車として初優勝したRA272
協力：本田技研工業(株)（夏特別展）



1960年に登場した白黒テレビ14EA
協力：東芝未来科学館（春特別展）

誕生し、どう成長し、いまどこへ向かおうとしているか、同じ時代にあって共通するもの、同じ時代でも異なるもの、それぞれの持つ情報が集まることで、社会の動きや産業技術・科学技術と暮らしのかかわりが描けると考えました。

そのコンセプトをもとに、実行プロジェクトが動き出したのは2013年秋。折しも2020年の東京オリンピック招致が実を結んだ頃です。

●振り返ると未来が見えてくる

科学技術館の50年間は昭和と平成にまたがっており、奇しくもおおよそ25年ずつです。そこに技術のキーワード



黒電話を初めてかけてみる子供たち
協力：NTT技術資料館（夏特別展）



当プロジェクトを統括した谷本副館長。春特別展の展示物、東レ「TEEWAVE®」AR1を搬出中

を重ねてみると、前半は「アナログ」、後半は「デジタル」という興味深い分け方ができます。周年企画には、これからの50年を考えるという大事な目的がありますが、これまでの歩みを振り返ることは、単に過去を知ること以上の意味があります。モノづくりにおいて新しいモノを生み出すことは、最新の知見や技術だけでできることではなく、これまでの積み重ねのうえにはじまるという本質的な事実にも焦点を合わせることにしました。



手回し計算機ワークショップは大人も子供も熱中
協力：東京理科大学（春・夏特別展）

これらの点をおさえて、2015年春休みイベント「しくみとくふうと、まなぶ展」、夏休みメインイベント「ニッポンの産業技術⇄50年『大・展望展』」の展示構成を進めました。さらに、電話や計算機など、今ではブラックボックス化したり、マイクロチップの中で起きていたりして目には見えないものが、時代を遡ることで仕組みとして見えるようになる技術があることも、好奇心に繋がる表現の視点として加えました。「家電解体ショー」や「手回し計算機ワークショップ」は



昨年の夏休み特別展「大・展望展」の導入コーナー「50年の冒険者たち」ではこの半世紀の企業・ブランドの歩みを振り返った



身近な洗濯機などの家電解体ショーは好評だった
協力：神奈川工科大学（春・夏特別展）

この点を盛り上げるために企画したのですが、老若男女あらゆる世代から大好評でした。

●科学技術の「ミウゼウム」に立ち返る

周年企画は、科学技術館の意義を再確認する意味で原点を問い直す機会でもありました。科学技術館の役割、使命、そして誕生の背景について、初代館長大塚明郎は、当時の「日本の科学と技術（※1）」にこう書いています。

「新しい教育方法となる代表的な一つが近代科学技術の教育機関としての博物館の役割である。もともと博物館はミューズの神に捧げられた殿堂を意味し、高度のまたは珍しい学術、芸術の成果を収集蓄積し、研究と観覧、ひいては文化向上に資するとともに、人間の資産である文化を、楽しみながらの享受に応えるための施設である。Museum 本来の意義にかえり、一国一民族、一時代の代表作品を対象とするとき、20世紀文化を代表する科学技術の成果がとりあげられることは必然のことである。日本人として、この科学技術の成果こそ供覧に値するものとの

認識が台頭し、財界こぞって設立した日本科学技術振興財団が科学技術のミウゼウムの建設を計画した意義が理解される。（※2）」

ここから、「科学技術館」に求められたもの、これは未来にも通じる普遍的意義であることがわかります。さらに科学技術館の英語名称である「SCIENCE MUSEUM」にこめられた意図も感じとることができるのです。



当時の「日本と科学と技術」からは、社会の躍動感が伝わってくる

●“課題先進国”日本の未来とは

これまでとこれからを見渡したうえで考える「社会的課題先進国」としての日本の未来。それは一つの可能性として「世界に先駆けた超スマート社会」という言いかたもされます。未来を示すには過去をキッチリとおさえる必要があることは前述の通りです。また、科学技術を文化として捉えるならば、なおさら国民・市民との協働を欠くことはできません。その取り組みは、国際的にも要用なる未来への一歩となることでしょう。

私たちもそのための努力を続けたいと思います。



ぶつからない技術、アイサイトの基盤に見入る
協力：富士重工(株)（夏特別展）

最後になりましたが、周年企画の実現に尽力をいただきました、企画支援チーム島田卓也様、安藤僚子様をはじめデザインムジカの皆様、うちきばがんだ様、廣川淳哉様、古田ゆかり様をはじめサイエンスカクテルの皆様、多くの企業・団体の皆様、そして、日本科学技術振興財団・科学技術館職員OBの皆様、科学・技術・産業そしてモノづくりがそうであるように、私たち財団も先人の努力の積み重ねの上にあることを本当に実感しました。あらためまして、ここに皆様への敬意と心よりの感謝を申し上げます。有り難うございます。

<科学技術館運営部 谷本嗣英>

※1 「日本の科学と技術」：日本科学技術振興財団発行の科学雑誌1964(昭和39)年新年号より抜粋要約

※2 さらに、第二の意義として「世界をリードする科学技術は広い裾野あつての高山であることをおもえば、青少年の自発的意欲が条件である。その意欲をつくるのに役立つのが直接アツピールする科学館である。科学技術者を得ようとするれば、まず科学技術の成果を知らすことが第一である。」としている

■ 科学技術館より

○ゴールデンウィークに「第20回科学技術館・万華鏡手作り教室」を開催

ゴールデンウィークの5月3日(火・祝)から5日(木・祝)までの3日間、科学技術館で「第20回科学技術館・万華鏡手作り教室」を開催します。

今回の教室では、日本万華鏡博物館のオリジナルキット「ミニ・正三角形万華鏡」を組み立てます。

美しく不思議な幾何学模様が生まれる光のしくみを、実際に組み立てながら学ぶことができます。世界にひとつだけの万華鏡を、ぜひ作ってみませんか？

- 開催日：5月3日(火・祝)～5日(木・祝)
- 時間：11:30～、13:00～、14:30～
※各回、約45分程度
- 会場：科学技術館4階イベントホール
- 受付：開始時間の30分前から会場にて整理券を販売
- 参加費：1,500円(万華鏡キット代込み、入館料は別途必要です)
- 定員：各回35名
- 主催：(公財)日本科学技術振興財団 日本万華鏡倶楽部



小学生高学年以上ならば1人でも作れます。小さいお子さんは家族と一緒にご参加ください



大人の方だけのご参加も大歓迎です

○第25回「青少年のための科学の祭典 2016 全国大会」今夏開催



工作などの製作物は持ち帰りもできる。リピーターの多い大人気の「科学のお祭り」。入場は無料!



北の丸公園で行う野外観察会も例年、大好評

青少年が科学の基礎からその発展まで体験や学習ができるように、全国から理科実験を得意とする個人や、企業や大学などの団体が行う産業技術や先端技術につながる実験などを幅広く募集し、約70の出展が集う大規模な「青少年のための科学の祭典」を開催します。

また、日本学生科学賞(読売新聞社主催)の最終審査会で受賞した中学校や高校から、受賞した研究内容の出展とプレゼンテーションを実施します。

約70の出展は、科学の各分野(物理・化学・生物・地学・数学・エネルギー等)を網羅する多彩な内容で構成し、小学生から大人まで楽しみながら、科学についての理解を深めていただける場とします。

- 会期：2016年7月30日(土)～7月31日(日)
- 会場：科学技術館1階催事場ほか
- 入場料：無料
- 問合せ：事務局 03-3212-8447
- URL：<http://www.kagakunosaiten.jp/>

■ 所沢航空発祥記念館より

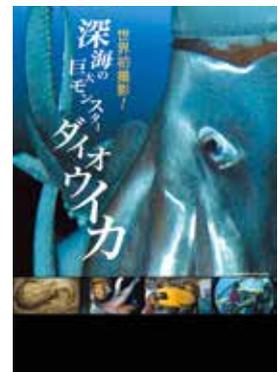
○「深海の巨大モンスター『ダイオウイカ』」を大型映像館で上映! ゴールデンウィークには「名探偵コナン」も

2016年4月1日(金)から6月30日(木)まで、所沢航空発祥記念館の大型映像館で、“幻の超巨大イカ”ダイオウイカを追った海洋科学アドベンチャー番組「深海の巨大モンスター『ダイオウイカ』」(上映時間約35分)を上映します。

また、4月23日(土)から5月8日(日)までは、「ゴールデンウィーク大型映像フェスティバル」と題して、プラネタリウムを舞台にした「名探偵コナン『探偵たちの星月夜』」(上映時間約25分)を、「ダイオウイカ」と交互に上映します。

いずれの作品も、迫力ある大スクリーンで、ご家族でお楽しみいただけます。

上映スケジュールの詳細は、下記URLから公式サイトをご覧ください。



まばゆく輝く「ダイオウイカ」を大型スクリーンで ©NHK/NEP/DISCOVERY CHANNEL センター

- 開館：9時30分～17時00分
(入館は16時30分まで)
- 休館日：月曜(祝日の場合は翌平日)
*5月2日(月)は臨時開館します
- 入館料：
展示館 大人510円、小人100円
大型映像館 大人620円、小人260円
共通割引券 大人820円、小人310円
- 住所：埼玉県所沢市並木1-13
(県営所沢航空記念公園内)
- TEL：04-2996-2225
- URL：<http://tam-web.jsf.or.jp/>

★ 科学技術館のご紹介 ★

公益財団法人 日本科学技術振興財団は、博物館「科学技術館」を運営しています

科学技術館は、身近な科学の不思議とその仕組みを、展示物や実験ショー（実験演示）、工作教室などを通して、見て・触って・からだ全体で楽しみながら学べる体験型の博物館です。2階から5階まで4つのフロアに、鉄、新エネルギー、建設、電気、車、自転車など約30の展示室・ブースがあり、個々の知識や興味に応じて科学と技術への関心を深めていただけます。2015年10月には来館者累計3000万人を達成しました。



PICK UP!

4階「建設館」 “建設現場”の作業員になって技術を学ぼう

巨大なクレーンを動かせる「チャレンジ! タワークレーン」。入り口には、有料（100円）で「建設スタッフ作業員証」を作れるコーナーも!



※ この展示室は、一般社団法人日本建設業連合会が出演しています。

大きな地震にも耐える超高層ビルや、何キロも続く橋や地下トンネル——世の中にある建造物や構造物は、安全性を保つため、実に様々な先端技術を活かして建設されています。「建設館」は、全体を“建設現場”に見立て、こうした建設にまつわる科学・技術を、楽しく体感しながら学べる人気の展示室です。

実際に操作ができる本物さながらのタワークレーンや、トンネル掘削を疑似体験できるシールドマシンは大好評。ワークショップでは、模型実験で耐震・免震・制震技術について学ぶことができ、そのあと、地震免震体験装置に乗って、震度7の激しい揺れが抑えられる効果を体感してみるのもおすすめです。

他にも、風洞実験装置、構造物の基本がわかる建設パズル、コンクリートのコーナー、建造物のランキングが見られるデジタル建設工房など、内容は盛りだくさん。今後、新しいワークショップ・プログラムも登場しますので、どうぞお楽しみに。

★ ご利用案内 ★

開館時間 9時30分～16時50分（16時までにご入館ください。）

休館日

水曜日（祝日の場合は次の平日） 年末年始（12/28～1/3）

ただし次の期間の水曜日は開館します。

- ・春休み（3/20～4/6）
- ・科学技術週間（4/18「発明の日」を含む月曜日～日曜日の1週間）
- ・ゴールデンウィーク（4/29～5/5）・夏休み（7/20～8/31）
- ・都民の日（10/1）・11月～2月

入館料

	大人	中学生 高校生	子ども (4歳以上)
個人	720円	410円	260円
団体 (20名以上)	520円	310円	210円

※ 障害者手帳等をお持ちの方には割引制度があります。

※ 65歳以上の方には割引制度があります。チケットカウンターでお申し出ください。

住所 東京都千代田区北の丸公園2番1号

TEL 03-3212-8544

URL <http://www.jsf.or.jp/>



の場合 東京メトロ東西線「竹橋」駅下車1b出口徒歩約550m
東京メトロ東西線・半蔵門線・都営地下鉄新宿線「九段下」駅下車2番出口徒歩約800m



の場合 首都高速都心環状線（外回り）代官町出口からすぐ [☆国会議事堂から車で約15分]
首都高速都心環状線（内回り）北の丸出口からすぐ [☆東京駅から車で約15分]

※ 科学技術館には駐車場がありません。



駐車場 北の丸公園内駐車場 8:30～22:00（国民公園協会 皇居外苑 北の丸駐車場）

- ・大型車1台…3時間 / 1000円（1時間増す毎に200円加算）
- ・普通車1台…3時間 / 400円（1時間増す毎に100円加算）

※ 駐車台数に限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

JSF Today（財団の窓） 第140号

発行日:2016年4月25日

企画・編集・発行:公益財団法人日本科学技術振興財団 経営企画・総務室

〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2番1号

TEL:03-3212-8584

URL:<http://www2.jsf.or.jp/>

印刷・製本:株式会社アム・プロモーション

